

スケールを覚えるコツを掴み完璧にマスターする講座 スリーノート・パー・ストリング編vol.14

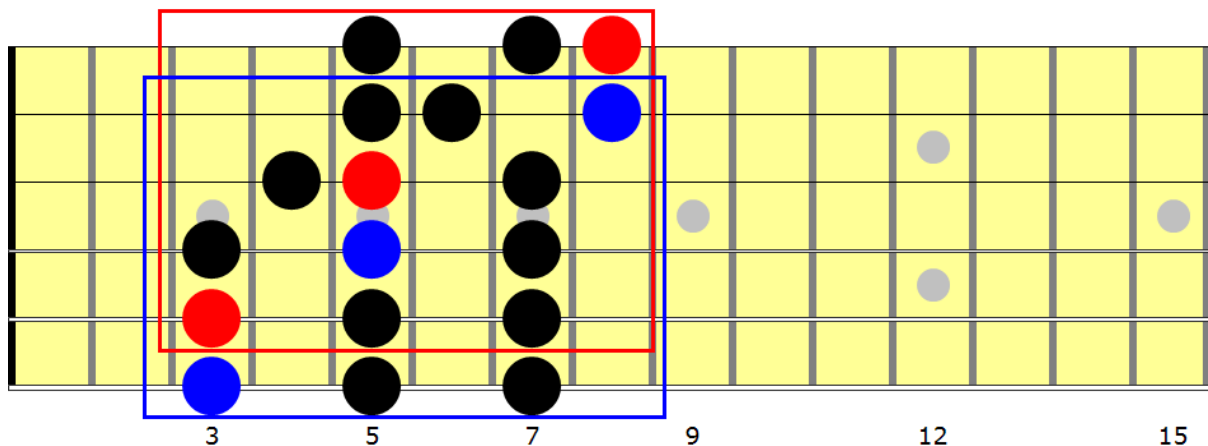
さて、これまでの内容で、3npsスケールの弾き方における、各スケールの基本的なポジションは全て学び終わりました。

あれらを、普通の上昇&下降で弾いていても覚えることは十分にできますが、最後のまとめとして、ポジションの記憶と同時に、指板全体を把握しやすくするための練習法を紹介しようと思います。

ということで、まずは大前提として、これまで、実質、指板上を7つに区切ったものでポジションを覚えたわけですが、各ポジションには、「6弦トニックで見た場合」と「5弦トニックで見た場合」とで、重複するものがあるわけです。

例を挙げるとこんな感じですね。全てをわかりやすくするためにCキーで見ていきましょう。

図1、Cアイオニアン(5弦トニック)、Gミクソリディアン(6弦トニック)、3nps



(※赤丸が5弦トニック時のC音、青丸が6弦トニック時のG音)

このポジション(範囲)の場合、5弦3フレットのC音をトニックに見るとCアイオニアンのポジションで、6弦3フレットのG音をトニックに見るとGミクソリディアンのポジションになるわけです。

この2つは、結局、構成音が同じなので、同じ形(ポジション)の中で、どちらの音をトニックに見るかで、「どちらのスケールとして弾いているのか？」が変わります。

そして、これと同じように、残りの6ポジションにも重複するものがある、とそういうわけですね。

ちなみに、Cキー時の基準スケールである、Cメジャー(アイオニアン)スケールの構成音から成り立つ、各チャーチモードは以下の様になりますね。

I、Cアイオニアンスケール CM7(I M7)

- Ⅱ、Dドリアンスケール **Dm7(Ⅱ m7)**
- Ⅲ、Eフリジアンスケール **Em7(Ⅲ m7)**
- Ⅳ、Fリディアンスケール **Fm7(Ⅳ M7)**
- Ⅴ、Gミクソリディアンスケール **G7(Ⅴ 7)**
- Ⅵ、Aエオリアンスケール **Am7(Ⅵ m7)**
- Ⅶ、Bロクリアンスケール **Bm(♭ 5)(Ⅶ m7(♭ 5))**

色々なところで解説していますが、キー(調性)に基づいて導き出された上記のスケール群は、全て同一の構成音から、基準にする音(トニック)を変えただけになりますね。

そして、この関係性を元に、全てのポジション(7か所)で6弦トニックと5弦トニック、2つの見方から全てのスケールを把握していくわけです。

という事で、練習の仕方は極論自由なのですが、ここでは僕が良くやっているパターンを2つほど紹介します。

まず一つ目は、普通にストレートな上昇&下降で弾き切るものです。

6弦と5弦のどちらのポジションから弾き始めても良いのですが、どちらかと言えば、5弦から始めた方がトレーニングとしてまとめやすいかと思います。

先ほど図1で挙げた、CアイオニアンとGミクソリディアンのポジションでやってみましょう。

譜例1、2種のスケールを、重複するポジション内で同時に把握するトレーニング案1

この様に、トニックの位置で今弾いているスケールの認識を切り替えて、重複しているポジションを同時に覚えていきます。

次は、譜例1の弾き方を基本に、テクニク的な面で強化を入れたパターンです。

5弦をトニックに見ている時と、6弦をトニックに見ている時で、パターンを変えています。

譜例2、2種のスケールを、重複するポジションで同時に把握するトレーニング案2
 (※小節数が多くなり過ぎないように表記を6連符にしていますが、練習では3連符でも構いません)

♩アイオニアン

♩ミクソリディアン

指使いやピッキングのパターンはこれ以外にも沢山ありますので、その時、自分の鍛えたいものを選んで弾いてみてください。

この様なコンセプトで、1ポジション辺り、5弦と6弦のトニックで2種類ずつ把握していき、全7ポジションを自由に弾けるようにしていきます。

では、ここまで全て、5弦トニックCアイオニアン+6弦トニックGミクソリディアンのポジションで解説してきましたので、残りの6ポジションの図を見ていきましょう。

図2、Dドリアン(5弦トニック)、Aエオリアン(6弦トニック)、3nps

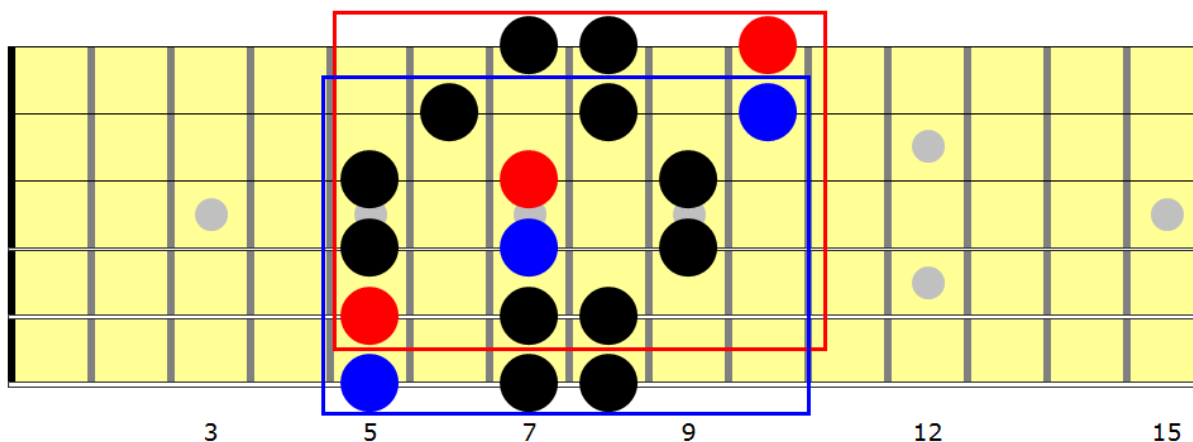


図3、Eフリジアン(5弦トニック)、Bロクリアン(6弦トニック)、3nps

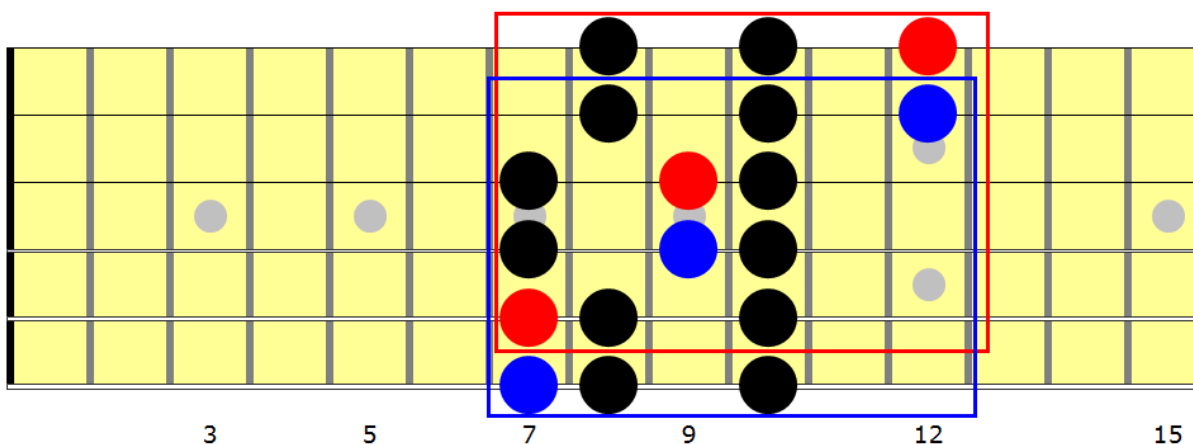


図4、Fリディアン(5弦トニック)、Cアイオニアン(6弦トニック)、3nps

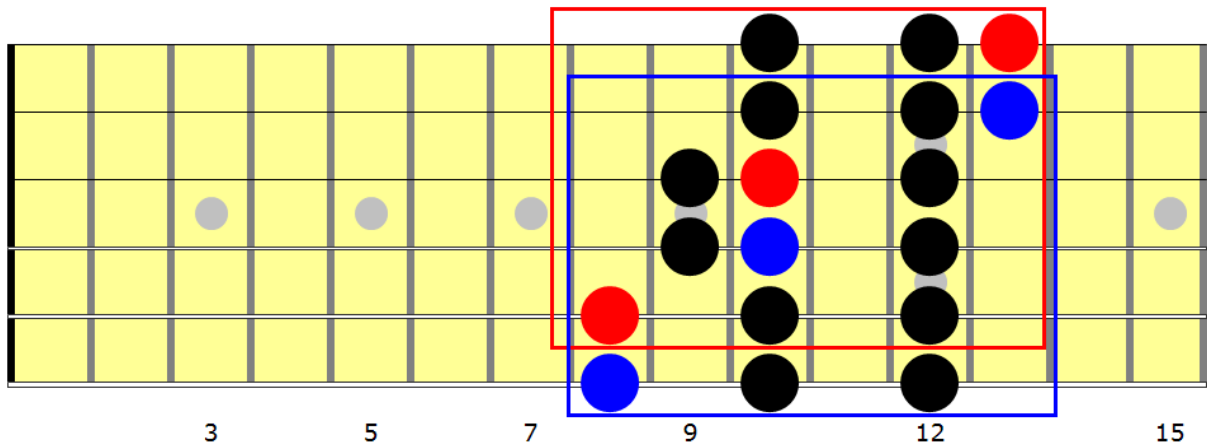


図5、Gミクソリディアン(5弦トニック)、Dドリアン(6弦トニック)、3nps

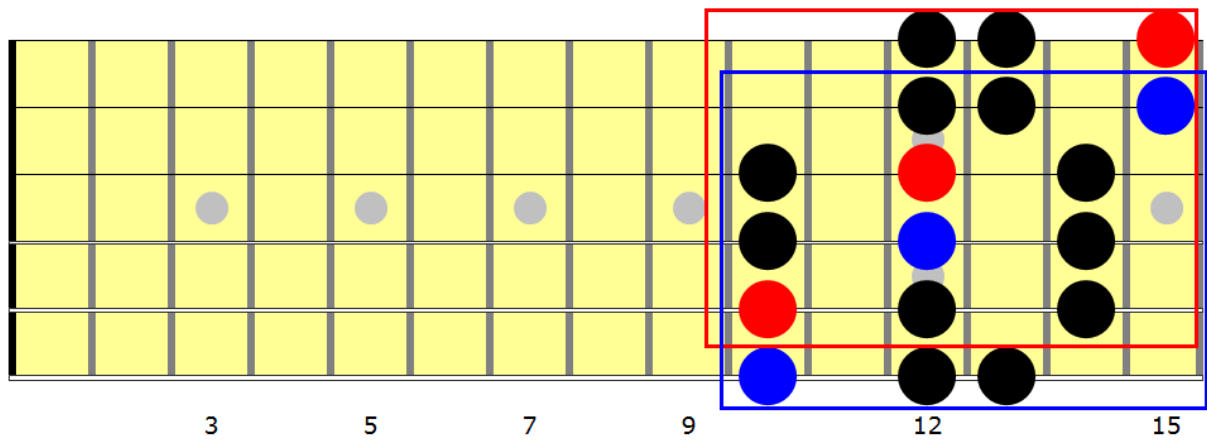


図6、Aエオリアン(5弦トニック)、Eフリジアン(6弦トニック)、3nps

(※弾く場所がハイポジションに寄っているのです、この図はフレット数もボディ側に寄っています)

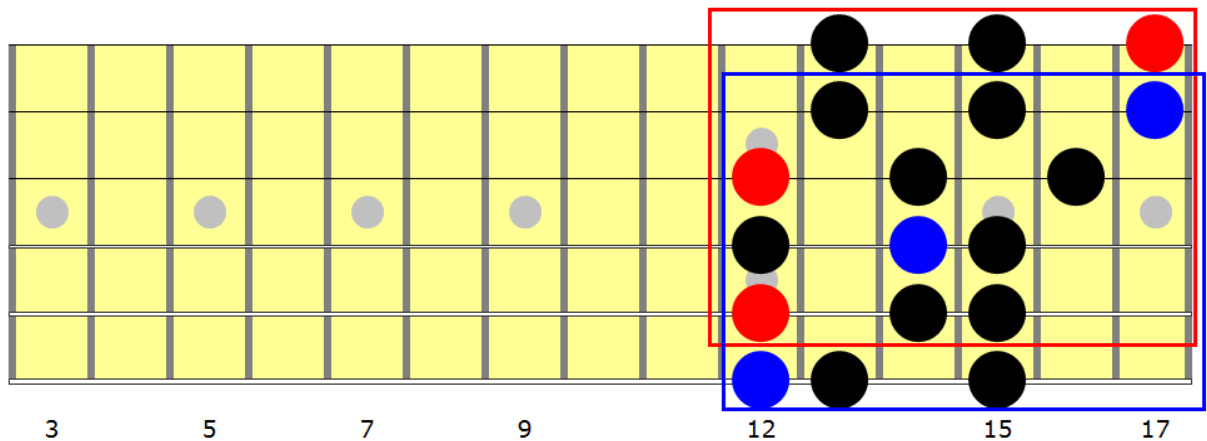
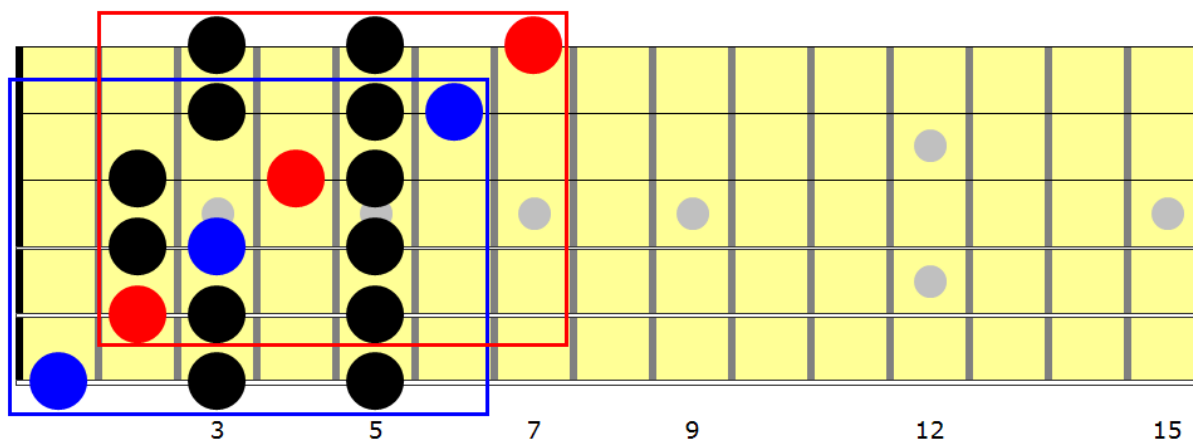


図7、Bロクリアン(5弦トニック)、Fリディアン(6弦トニック)、3nps



ということで、これらを基礎練習のメニューなどに組み込んで、日々の練習に取り入れてみてください。

全て目を瞑っていても弾けるようになれば、演奏時もコピー(採譜)時も、かなり自由度や理解度が上がっていることを実感できるはずです。

繰り返しになりますが、このテキストで載せたもの以外にも、効果的な練習、把握法やピッキングのパターンなどは多数ありますので、自分なりに工夫して色々なものを弾いてみてください。

それでは、【スケールを覚えるコツを掴み完璧にマスターする講座 ～スリーノート・パー・ストリング編～】は以上で完結となります。

ありがとうございました！

大沼